

1 学校教育目標

○進んで学ぶ人 ○礼儀正しい人 ○やりとげる人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指す学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自ら学ぼうとする意欲があり、自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自分には厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状及び成果】

- ① 全校的に落ち着いた環境の中で授業を中心に学校教育活動が展開されている。授業改善推進校として授業改革に努める教員の姿勢がある。
- ② 各学校行事（運動会、文化祭、合唱コンクール）達成感や連帯感をもてるものとして実践できた。保護者や地域からの学校生活アンケートでは「行事への対応の内容は適切であったか」の肯定的評価%と高い評価を得ている。
- ③ 授業においては小中連携の取組を通して生徒主体となる授業実践が定着してきている。学習課題からめあてを引き出す授業を目指している。生徒アンケートより「めあて」の提示が学校全体で97%であった。

【課題】

- ① 学力の向上の基礎となる学習意欲の向上を図るため、一人一台タブレット端末を活用した教師の授業改善の意欲推進や家庭学習における学習の取組の充実を図る必要がある。
- ② 個別最適な学びの視点から知識・技能の着実な習得を図るのはもとより、授業内における指導の個別化を意識した思考力・判断力・表現力、問題解決能力の育成を図る必要がある。生徒が主体となる授業展開を更に進め、発問の精度を向上させる一層の取り組みも必要である。
- ③ 不登校生徒と登校しぶり生徒の割合は約6%の状況が続いており、生活指導部と教育相談部、教育相談コーディネーターを中心に学校全体で組織的に取り組むとともに、SCの活用SSWを活用した関係機関等との一層の連携を今後も図る必要がある。生徒の問題行動への初期対応、保護者への対応、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けて、学校全体で組織的な対応を継続する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実と小中連携の強化			○	○	○
3	心の教育の充実と組織的な対応	○	○	○	○	○
4						

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの意欲と学力の向上		到達度確認テスト 正答率学校全体 62％ 令和6年度通過率 65％		到達度テスト正答率65.2％ 令和6年度通過率 69.4％		年度末に行った到達度テストの正答率は2.3年生で65.2％となった。R6の通過率は学校全体で69.4％であり目標を上回ることができた。課題は一部教科で正答率や通過率に区平を下回る教科がある。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	授業力の向上	全教科 全教員	通年	○年間3回他教科校内授業観察週間の設定と研究協議会の実施。 ○管理職による授業観察年3回実施と自己申告時の面接。 ・教科指導専門委員との成果発表授業研究協議会の実施 ○小中連携による研究授業公開と協議会及び研修会実施（年7回） ・事前指導案検討→研究授業→研究協議を4校で実施 ・各教科担当小中校長からの指導講評の実施 ○区中研参加の徹底と都研参加の増加と還元研修の実施	○指導主事による授業観察と指導講評 ○授業観察シートによる授業評価 ○年間2回生徒授業アンケート実施 ○年度末到達度確認テストによる検証 ○令和6年度末区学力調査による検証 ○保護者授業アンケートによる検証	○研究協議後の授業改善に生かした教員90% ○管理職による授業評価4段階 B以上90%以上 ○生徒の授業アンケート肯定的回答90% ○小中連携教員間の肯定的回答80%以上 ○年度末到達度確認テストの正答率各学年65%以上 ○保護者学校評価授業アンケート「改善を要する」5%以下	○年間2回の授業観察週間となったが実施することができた。研究協議後の教員アンケート91%を達成した。 ○管理職授業観察全教員3回実施できた。授業評価B以上83%であった。 ○生徒アンケートの結果78%と肯定的意見であった。 ○年間4回計画的に連携が進められアンケート結果肯定的意見85%であった。 ○現在実施中 ○学校評価アンケート %が改善を要する。	授業力の向上と改善を図るための手立てとして授業観察週間を次年度も実施する。 教科により肯定的な意見に差が出たことから更に授業展開の工夫が必要な教科がある。 課題として生徒のタブレット端末活用した授業展開に重点を置いて授業力の向上を図る。 小中連携においてもICTの活用を中心とした研修としていく。	○
	朝学習の実施	全生徒 国語 数学 英語 理科 社会	週5回 通年で実施	朝学習10分間を徹底する ○取組のねらい・目的 学習習慣を身に付け基礎学力定着と学力の向上を図る。 ○使用教材 AIドリル 教科担任作成ドリル キュビナシートによる自己分析	キュビナ活用レポートによる分析と検証対策 各教科キュビナシートによる分析の実施	月平均回答数 全教科合計150問以上 8月の回答数の向上 強化月間300問以上	10.11.12月の平均回答数は222問であった。WAU率（週に1回以上利用した生徒の割合）約65%であった。前回の報告から25%向上した。強化月間は設けなかった。	年間を通して朝学習においてAIドリルに取り組むことができた。 朝読書などの活動も取り入れながら次年度も取り組んでいく。	○

	授業展開の工夫	全教員	通年	○授業内でのタブレット端末を活用した学習の提供 ○デジタル教科書の有効活用 ○Google クラスルームの活用	○管理職による授業観察 ○学習進路部による状況確認 生徒アンケートICT活用に関する評価	○授業にICT機器を活用した教員 100% ○学習進路部によるICT機器活用アンケート肯定的意見 80% ○生徒授業アンケート肯定的回答 80%	○ICT活用教員は5教科での活用は 100%となった。課題は実技教科での活用率向上である。 ○生徒授業アンケートでは 91.2%が肯定的意見であった。	タブレット端末を使用した学習者主体の情業展開を更に向上させていく必要がある。 デジタル教材をさらに活用推進していく授業展開を推進する。	○
	学習コンテスト	全生徒 国語 数学 英語 社会 理科	各教科 年 2 回 ～3 回	○基礎学力の向上と定着を図るコンテストを実施。 ○学習意欲の向上と学習習慣の形成を図るコンテストの実施。 【使用教材】 教科担任作成問題 各教科 1 回プレテスト実施後、本番コンテストを実施する。	定期テストによる検証。 再テストによる検証。 コンテスト結果で検証する 年度末到達度テストで検証する。	国語・数学コンテスト合格率平均 90%以上 英語コンテスト合格率平均 85%以上 再テストの合格達成率 80%以上。	1.2 学年各教科コンテスト 2 年英、国、社、数合格率は 80%を達成した。 1 年生国語、数学、社会、英語の合格率は 75%だった。	各教科コンテストは朝学習としても取り組んでいた。個人差が開きつつあるので補充学習にも取り組ませていく。	○

重点的な取組事項－ 2		キャリア教育の充実と小中連携の強化			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自身の特性に応じた進路を考え、将来の夢や目標に向かい努力できる力を身に付けさせる。		区調査意識アンケート 「将来の夢や目標を持っていますか」 学校全体 70%以上 「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」 学校全体 80%以上	「将来の夢や目標を持っていますか」学校全体 72% 「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」 学校全体 85.4%	夢や目標に関しては学年進行で減少している夢や希望をもって卒業できるようにさせる。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

組織的なキャリア教育の実施	区学力調査の意識調査 「将来の夢や目標を持っている」70%以上 生徒アンケート 「なりたい職業や興味をもっている職業がある」75%以上	○学習進路部によるキャリア教育研修の実施 ○3年間のキャリア教育計画の実践 ○外部指導者を招き特別授業を実施	○生徒のアンケート結果では70%を超えた○キャリア教育研修は実施できなかった。3年間のキャリア教育は計画的に実践できた。○外部指導者を招聘した特別授業を実施した。	卒業生の医師やIT企業、脳科学者を招聘し講師とし将来に向け講演が生徒に届いた。	◎
特別活動の充実	区意識調査 「自分がやるべき事は、やりたくないときでも、きちんとやりぬくことができる」80%以上	○学級活動の充実 各行事に取組ませる事前事後学習の充実を図る ○学校行事の充実 これまでの行事に生徒の意見を取り入れる活動を実践する ○生徒会活動の充実 校則見直し等に生徒の意見を取り入れる場を設定する	○生徒アンケートより 1年生 94.7% 2年生 91.9% 3年生 92.0% が意欲的に特別活動に取り組んだと回答した。 ○区意識調査では79.9%という結果となった。	特別活動には教員の努力もあり意欲的に取り組んでいる様子が分かる。 次年度も特別活動を充実させていく。	◎
小中連携の強化	区意識調査 「難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる」80%以上	○義務教育9年間の小中一貫教育の視点によるキャリア教育スタイルを検証し推進する小中連携担当部門を設置する	難しいことも失敗をおそれないで取り組んでいる74.4%であった。 小中連携の強化は図れたがキャリア教育という点では連携部門は設置できなかった。	キャリア教育についての項目について検討していく。	△

重点的な取組事項－3					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人を大切にする心の教育		区意識調査 「自分には良いところがある」項目の数値向上75%以上	「自分には良いところがある」の数値78.6%となった。	今後も自己肯定感の向上を図っていく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

○心の教育の充実 ○いじめ防止 ○道徳授業の充実	・WEBQU調査 学年「学級生活満足群」 全国平均+10 ポイント ・要支援群の数値減少 ・学校評価による心の育 成についてB評価以上 90% ・自己肯定感の調査で、 肯定的評価の生徒 90% ・いじめ防止活動アンケ ート集計肯定的評価 90%	○WEBQU調査年2回 QU研修の実施 ○生徒会と保護者地域関係者 との連携活動の実施 ○生徒会自治活動の充実と 「いじめ根絶」活動の実施 ○外部指導者を招き特別授業 を実施 ○ローテーション型道徳授業 の実施と公開授業における 地域関係者との協議会の実施	○WEBQU調査年2回の実施 学級生活満足群はどの学年も全 国平均+10 ポイント以上となっ た。 ○生徒会が主催した活動に地域関 係者を招聘し連携活動ができ た。 ○生徒会本部役員が中心となり 「いじめ根絶」に向けた取組が できた。 ○ローテーション型道徳授業は年 間を通して実践できた。	「自分には良いところ がある」の数値 78.6% となった。 自己肯定感としては まだ向上を図る取り組 みをしていくことが課 題である。 いじめに対しては生 徒会が中心となり根絶 向けての取組を継続さ せていく。	◎
○不登校生徒・登校 しぶり生徒への対応	・学校評価「子供は第十 四中の生活に満足して いる」項目B以上 90% ・不登校生徒の登校支援 をすすめる継続的な 関係づくりと定期面 接の実施	○特別支援委員会と教育相談 コーディネーターによるケ ース会議の計画的実施 ○SSW、SCの有効活用 ○学校での居場所づくり ○保護者、地域関係者との連 携	学校評価「子供は第十四中の生活 に満足している」項目B以上 90%を達成できた。 SSW、SCとの連携も確実と なり臨時会議等を設けることがで きた。	不登校生徒等への家 庭連絡が継続的に行わ れサポートルームへの 登校が可能になった生 徒も現れた。このこと 継続していきたい。	◎
○全校体制での生徒 への個別支援	教育相談部会の年間 3 5 回以上実施	○毎週木曜 2 校時に教育相談 部会を実施 ○SC・SSW と不登校、不適応生 徒の情報の共有化を図る。 ○特別支援教室との個別支援 の連携充実を図る。	教育相談部会にはSSW、SCを 加えて年間 35 回以上実施するこ とができた。 情報の共有という面も強化が図 られた。 特別支援教室との連携としても 効果的であった。	特別な支援を必要と する生徒や不登校生徒 の情報の共有を今後も 継続し手厚い対応に努 めていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

①全校的に落ち着いた環境の中で授業を中心に学校教育活動が展開されている。授業改善を進めようと学習進路部を中心とした授業改善週間を設け、教科を超えた授業観察を行い、互いに授業改善に努める教員の姿勢がある。

②学校の三大行事、運動会、文化祭、合唱コンクールにおいて、生徒が達成感や成就感、連帯感をもてるものとして実践できた。保護者や地域からの学校生活アンケートにおいても肯定的評価 90%と高い評価を得ている。

③小中連携の取組を通して生徒主体となる授業実践が定着してきている。教科での系統性を考え学習課題からめあてを引き出す授業を目指した令和 5 年度から発展的に令和 6 年度は表現活動について焦点を当て検討するなど、進歩することができた。令和 7 年度につながるものとなった。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ①学習においては授業改善を目指した上で、授業改善週間を設けるなど教員自ら授業改善に取り組み ICT を活用した授業展開がされています。授業改善への意識が向上し、生徒が今後学ぶべき、学び方に取り組み始めることができます。
- ②各学年がキャリア教育にも取り組み職業調べ、職場体験、進路学習を実践し、租税教育であったり税の作文にも取り組むことで主権者教育としての学びも実践しています。
- ③今後、生徒の学び方である学校図書館を利用した探求型の学習をさらに追及していきながら、学力の向上につなげていきたいと考えています。ご理解とご協力をお願いします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ①学力の向上の基礎となる学習意欲の向上を図るため、生徒授業アンケートや学力調査等の結果・分析と教師の授業改善の意欲向上や ICT の積極的な活用、特別活動を中心とした授業外における学習の取組の充実を図る必要がある。
- ②個別最適な学びの視点から、知識・技能の着実な習得を図るとともに単元全体をとおして、思考力・判断力・表現力、問題解決能力の育成を図る。その為には生徒が主体となる授業を展開し、それら学校での学びを実際の生活に生かしていけるような一層の取り組みが必要である。
- ③授業のみならず生徒自らが探求することができるような、課題の提供と家庭学習を推進していく必要もある。